



## Q 育短取得を考えたきっかけは？

私は、平成16年度に採用され、市民税課、生涯学習課を経て、現在は会計室に所属しています。

生涯学習課に所属していた時に子どもを授かりました。漠然とした不安はありましたが、深く考える余裕もないまま、産前、産後、育児休業を取得しました。

子どもが1歳になり、職場復帰が近づいてきても時間に余裕のない毎日を過ごしていたので、育短を取得しようと考えました。

## Q 育短を取得してよかったと感じたことは？

子どもと接する時間が増えたことです。初めのうちは、8時50分に出勤、14時30分に退勤する勤務形態を選び、少しでも早く子どものお迎えに行きました。

上の子が小学校に入学してからは、9時20分に出勤、15時に退勤して、夕方は習い事の時間にしました。

「今しかできない！」という気持ちがあったので、興味を持ったものは体験させました。色々としたおかげで、好きなもの、自信を持てるものが見つかりました。

## Q 育短取得の際に不安に感じたことは？

仕事と子育ての生活サイクルに慣れるまでは、時間内に仕事を終わらせるか、朝の支度が間に合うかなど、不安になることもありました。それでも、職場に行けば、同じように子育てをしている先輩職員に相談することができました。

上司や同僚の支えがあり、業務内容もたくさんの配慮をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。



会計室 主査

倉地 祐里子



### 略 歴

平成16年	4月採用
平成24年	第1子出産・育児休業取得
平成25年	育児短時間勤務開始
平成26年	第2子出産・育児休業取得
平成27年	育児短時間勤務開始
平成29年～	現所属

## M 育短取得を検討している方へのメッセージ

私がお伝えする育短の感想は、ほんの一例です。育短の勤務形態は何種類もあるので、様々な働き方を選ぶことができます。育短が取得できるのは「職場の上司や同僚の支えがあるからこそ」という気持ちを、忘れないでください。

子どもの急な発熱など、職場に到着した瞬間に幼稚園から連絡が来ることも何度もありました。処理中の業務は、誰が見てもわかるよう、整理をすることも大切だと感じました。

春からは下の子どもも小学生になり、育短勤務も終了します。たくさんの幸せな時間を過ごせてもらいました。感謝の気持ちを忘れずに、次の世代につないでいきたいと思います。

